



TAISEI
JUNIOR-SENIOR
HIGH SCHOOL

T A I S E I

泰星

泰星学園
同窓会会報

創刊号 1995. 4月

発行元 泰星学園同窓会事務局
〒810 福岡市中央区輝国1丁目10-10
TEL (092) 712-7181㈹
FAX (092) 716-5036



目次

- 発刊にあたり
- 姉妹校よりお祝いの言葉
- 同窓会活動報告
- 同窓生紹介
- 泰星会今昔物語
- 泰星学園は今…
- 事務局だより



同窓会会長 久保 守

『発刊の辞』

泰星中学・高等学校校長
キース・ウーリック

『泰星学園同窓会 会報誌発刊を お祝いして』

待望久しい会報誌がいよいよ産声をあげる時を迎えた。慶賀の至りと言うべきであります。

同窓会を発展させてゆくべき基本的な事業として四本の柱を挙げるこができるでしょう。第一は、言うまでもなく、総会の充実です。できるだけ多くの会員の参加を目指し、楽しい一時を設定することです。第二は、名簿の整備であり、以上の第一と第二の事業はこれまでに様々な努力が重ねられ、更なる努力が要求されているにしても、その取るべき方策の軌道は大体設定されてまいりました。

第三は、マス・メディアの世紀と言われるこの時代において、当然の仕事としての機関紙の発行であります。「総会」が、時と場所と仕事等々様々な条件の制約を受けるのに比べて、「会報誌」は、これらの制約を受けずにある程度自由に、情報の交換を行い、過去を語り、状況を知らせ、未来を述べる機会を提供してくれる、第二の「総会」ともいうべき性質をもっています。この機関紙を

充実させることによって、どうしても総会に出席できない人をも含めて、同窓会への会員の参加の輪を広げてゆくことができるでしょう。

今、この会報誌の発刊の日を迎え、同窓会の更なる発展を期す決意を新たにするのであります。

さて、同窓会の第四の柱は、組織の充実であります。この「組織」というのは、規約、執行機関等の組織はいわゞもがなの事であつて、さらには、各クラブのOB組織、各地方及び職場の支部組織を言うであつて、これは今後に残されている課題として、その実現に新たな努力を払わなければなりません。

母校の発展と同窓会の発展とは、互いに相乗作用を持つといえます。母校が発展すれば、同窓会が発展するし、その反対もまた真であります。母校「泰星」が、社会において高い評価を確立してきた現在、同窓会も、この会報誌の発刊を期して、会員一同「泰星健児」の努力を結集して、大いなる発展を実現したいのです。

泰星会の教育方針は、『人のために生きる人を育てる』を目標にかけています。単なる知的教育だけでなく自分の才能を他人のために、特に、社会的弱者のために役立つ人材を育ててほしいと願っています。先

に育つべき人材を育むことを目標に、泰星会の今後の益々のご発展を祈念し、私の御挨拶とします。

姉妹校よりお祝いの言葉



栄光学園同窓会会長
沼田 安弘

『泰星』発刊をお祝して

貴同窓会誌『泰星』の発刊を心よりお祝申し上げるとともに、お慶び申し上げます。これはひとえに、久保会長をはじめ役員の方々のご努力の結晶であり、皆様のご苦労に対し改めて敬意を表する次第です。

同窓会活動において「会誌」の果たす役割は、まず第一に会員相互に情報を伝達することであり、同窓生の協力と連帯を培う上で会誌がきわめて重要な機能を有することは申すまでもありません。

また、数年前に連絡会が発足した「イエズス会校（四校）同窓会」の連携という点でも、同窓会相互の情報交換や交流活動の発足に果たす新たな役割が期待されます。現在、四校同窓会の会員レベルでも、相互の交流と親睦を図ろうとの趣旨で様々な企画が生まれ、着実に交流の輪が広がりつつあります。このように、四校同窓会が一つのファミリーとしての自負を持とうとしているこの時期に、貴会誌が発刊されることはまことに意義のあることと申せましょう。

さらに、世界のイエズス会校同窓会との関連でも、大きな意義があると考えます。間もなく到來する二十一世紀は、四校同窓会が世界に目を向け力を合わせて行動していくべき時代であると確信します。欧米先進国はもとより、アジア諸国のイエズス会校・カトリック校との交流を進めていかなければなりません。このような国際化時代に向けて、まず日本の四校が基盤づくりに取り組むことが大切です。

貴同窓会には、学園発足の経緯にともなう困難もあるうかと存じますが、イエズス会校の連帶には、このような困難を乗り越えていくだけ

の価値があると信じます。一同窓会や一国内の問題にとどまらず、日本から地球社会へ、イエズス会校・カトリック校、そしてその同窓会が、ものであります。貴会の活動が、今回の会報誌によって、一層の力を發揮されることを祈つてやみません。同時に、四姉妹校がより親密になる緒口ともなるでしょう。心から創刊をお祝い申し上げます。



六甲伯友会会長
阪上 秀太郎

『泰星』の創刊を祝して

この度の会報誌の創刊をお祝い申し上げます。

泰星学園は四姉妹校のなかでは最も古い歴史と伝統を持つのですが、イエズス会の經營によつて中学校を併設され、新しい時代に対応する、むしろ若い学校として再出発されました。

北九州はわが国に文明の輝きを最初に投げかけた地であり、日本の歴史の出発点でもあります。しかも質実剛健、九州男兒の名は天下に知られるところであります。さらにまた、海外の新文化を吸収導入する窓口でもありました。古くは弥生の昔から遣唐使に至る古代日本の最前進地域であり、元寇の国難に際しては勇戦奮闘、祖国国防衛の任を全うしました。

さるに日本におけるキリスト教の基礎も、イエズス会によります九州に置かれました。このような過去の栄光を背に貴校が再びイエズス会の学校となつたことは、誠に意義あることと思います。しかし、伝統というものは、イエズス会が示すよう、固執するものではなく、未来へと築きあけてゆくものであります。二十一世紀を眼前にして、イエズス会系の学校には、その世紀を切り開いてゆく使命があるのでない

誇らしく思つております。

激動する時代にあたつて、共通した教育理念の下に学んだ四校卒業生は、互いに手を携え新しい時代の創造に尽力していかなければならぬと思いますが、なかでも貴同窓会諸兄のリーダーシップに大いなる期待を寄せております。

今後は「泰星」が新時代創造の為の情報発信源となり、同窓会活動の活性化に大いに貢献されることを信じてやみません。

貴同窓会並びに会員諸兄のご多幸ご健勝を心より祈念いたします。

イエズス会系学校の卒業生として、すでに社会にある我々こそ、この使命の重さを強く感ずるものであります。貴会の活動が、今回の会報誌

発行によって、一層の力を發揮されることを祈つてやみません。同時に、四姉妹校がより親密になる緒口ともなるでしょう。心から創刊をお祝い申し上げます。



広島学院翠友会会長
脇 地 生 忠

『泰星』創刊によせて

この度、同窓会会報誌「泰星」が発刊されることは、貴同窓会の新たな発展につながるものと、心よりお慶び申し上げます。

去る五年前、四校同窓会連絡会の設立を契機に貴同窓会との交流が始まりましたが、当時は福岡にイエズス会系の学校があるらしい、そこには広島学院に在籍された先生がおいでになるらしいといった程度の認識しかありませんでした。その後連絡会の交流を通じて泰星学園の生徒たちを教えていただきましたが、その歴史は、私達広島学院が足元にも及ばない素晴らしい歴史であることに尊敬の念を抱かされました。また貴同窓会が、このような歴史の上に立ち益々発展されていすることは、兄弟校の一員として

連絡会は、年二回開かれ、北から四校姉妹校が順次、当番校になって開かれている。この五月には、泰星が当番校で開かれる。

イエズス会校同窓会連絡会とは？

栄光学園同窓会長の沼田氏

の呼びかけにより「イエズス会系姉妹校四校が、個々の活動におわるのでなく、互いに連絡をとり、活動していくことによって、一層社会に貢献することができるのではないか」ということで一九九〇年に発足した。

発足当初の問題は、この会の目鼻立ちをどうするかということもあったが、なによりも、イエズス会系同窓会世界大会を一九九一年に控え、一九九〇年オーストラリアで開かれるアジア大会への参加をどうするかということであった。この二つの大会には、アジア大会には栄光、世界大会には六甲から代表を派遣することで実行された。世界大会は五年毎に開催され、次回はオーストラリアの予定である。

連絡会は、北から四校姉妹校が順次、当番校になって開かれている。この五月には、泰星が当番校で開かれる。



平成6年11月
広島学院においての連絡会の様子

『平成六年度同窓の集い』開く

平成六年七月二日(土)午後六時より、博多パークホテルにて開催された。本年度の担当幹事は第二十五・六期生であった。

まず久保会長の挨拶で始まり、

『泰星学園も福岡の地において、私学の雄としての確固たる地位を築いてきた。我々同窓生は、この母校の教育の成果を身に帯びて、お互いに助け合い、力を合わせるならば、素晴らしい力が結成されることを確信する。』と力強い挨拶で開催された。

議事に入り、議長を末若直司氏(六回卒)を選出し、平成五年度の事業報告、決算報告、平成六年度の事業計画、予算計画、役員改選等、満場一致で承認された。

尚、役員は会長久保守(旧中九回卒)、副会長松尾秀夫(新中五回卒)、田中文男(新中六回卒)大串安弘(新中六回卒)、敷田廣志(高八回卒)、島田征児(高十回卒)、監事増崎三則(新中二回卒)の方々です。

その後、懇親会にうつり、来賓に校長初め先生方を多数お迎えし、各卒業回ごとに賑やかに、輪ができる、久し振りの再会に話

も弾み、また同窓生有志の方々より多数寄贈された豪華景品のなかbingoゲームもあり、おおいに盛り上がり、最後に全員肩を組み校歌の大合唱をして、来年の再会を約束し閉会した。

平成七年度の開催は、七月一日(土)午後六時より同じ会場(博多パークホテル)にて、当番幹事、第二十六期生、第二十七期生の企画運営で行いますので、多數ご参加をお願い致します。



泰星学園同窓会 H6.7.2 於 パークホテル

昨年度パーティ風景

百四十余名の会員で年間の活動は、毎年一月三日に総会並びに新年会を開催、その時に徴収した年会費で、その年の卒業生への記念品贈呈・合宿の際の差し入れ・OBチームの試合への参加・登録・会員の慶弔関係などに充てられ運営しております。

OBチームは昨年の市民総合スポーツ大会の一般の部で、見事初優勝を飾り(写真)、さらに国体など上のレベルを目指そうと盛り上がりがつて来てています。部としては、八尋先生のもと創部二十七年目を迎え、さらに大石先生により中学部も発足し(十一年目)充実しています。



節目の二十年・二十五年には記念総会を催しました。二十五周年にあたる年は、中部地区優勝・県大会準優勝で九州大会(於・大分)初出場を果たし、記念の年に花を添えてくれました。より一層の飛躍を期待したいものです。

今後は三十年・五十年と続い

て会員数も増えて行く訳ですが、内容の充実と会員相互の親睦を計つて行きたいと思っています。

※一度も総会・新年会に出席された事のないOB・今回この記事を見て初めて知られた方は、是非御出席下さい。詳細は八尋先生か川村まで連絡をいただきたいと思います。

(OB会世話人二十三期卒 川村記)

ハンドボール部OB会のより一層の飛躍を期待して…

泰星会ゴルフコンペ開催

●日時 平成6年10月25日
●場所 北山カントリークラブ

久し振りに北山カントリークラブでのコンペでした。当日は天候にも恵まれ久保会長はじめOB12名の参加者を得て皆なかなかいいスコアが出たようです。久し振りのゴルフコンペで時間を忘れて話が弾みました。

次回は平成7年10月に予定しております。多数のご参加を期待しております。

【連絡・お問合せ先】
中6回卒 田中まで

平成7年度 泰星学園同窓の集い開催!!

お問い合わせは泰星学園同窓会事務局まで

●開催日：平成7年7月1日(土)
●時間：午後6時より
●場所：博多パークホテル
●幹事：第26期・第27期

『三十年も経つてから…』

野田 宏一郎（昌宏）

第三期 昭和二十七年卒



泰星時代にマリア会へ入った一期下の山崎君が叙品されることになり、上京して来た同期の森邦藏君や田中暁君と一緒に（かつての姉妹校である）暁星学園を訪問したのは三十年も昔のことである。

すでにマリア会の司祭として暁星にいた同期の富久君などと聖堂の前で雑談していた時、突然、イヤというほど私の背中をドヤしつけた奴がいる。びっくりして振り返ると泰星時代の恩師（豆タク）こと修道士のT師だった。

「この馬鹿者が！」

いきなりT師は怒鳴った。

「同じ東京に住んでおってからに、顔ひとつ見せにもこん／＼この馬鹿者が……」

小柄なT師は涙をボロボロこぼしながら我々の背中をドヤし続け、そのまま有無を言わざず校長室に連れこんだ。

そして、勝手知ったる校長の書棚の奥から取り出したショニ黒を茶碗に注ぎながらT師は止めどもなく喋り続けた。

「飲め！遠慮するな！酒は百葉の長

だ、大いに飲め！飲まんか／飲みすぎではないかんぞ。T校長（我々の時代の泰星校長）は留守だが、お前たちが訪ねて来たのだ、構うものか、全部飲んでしまえ。遠慮するな／飲み過ぎるなよ、酒は気違ひ水だぞ！」

教え子との再会にもう錯乱寸前、支離滅裂なことをめき散らすT師は昔とまったく変わらぬ生々とコワもての表情だった。

当時さんざんぶん殴られたT師だが、

道徳と規律と信仰がごっちゃになった当時のマリア会の“いわゆる道徳教育”なるものの彼方にそんな素朴で人間臭い愛と優しさが厳然と存在し、いまも存在し続いていることに初めて気がつき、ふと深い感動に捉われた。

東京タワーが完成して間もなくの頃だったか：受付に地味な身なりの老人がやって来て「ここに野田と言う男が勤めている筈だが……」と尋ねたとい

う。受付はいろいろ調べた上で「そんな名前の社員はおりません」と答えた

が、老人は「いや、そんな筈はない。間違いくちこに勤めているんだ。な

んとか搜してくれ」と頑張って受付を閉口させたと言う。

泰星から暁星に戻られた素朴で優しく、

いT師は、教え子がテレビ会社に就職したのだからテレビの送信アンテナがある東京タワーで働いているに違いない

いと思い込まれたらしく、その話が送信所経由で新宿のスタジオにいた私にまで伝わって来たのはずっと後になつての事だった。

スタジオといえば、森君や井上崇君と一緒にT師やI師と同じくやはりマ

リア会の修道士だった“ブラック”ことY氏を〈夜のヒットスタジオ〉の放送現場に案内したことがある。“カリ

ストの御名において／＼と叫びながら生徒をぶん殴る荒ッぽさでは定評のあったY師もすっかり脂が抜けていて、放送後に案内した中国飯店で“昔の怖さ”をからかったら「オ・俺だって、ト・歳をとつておる……」と、穴があいたら入りた。そな慌てぶりが実に微笑ましかった。

生き馬の眼を抜く生存競争に埋没して暮らす我々がすっかり忘れ果てていたかつての日々をそしてかつての我々のあり様を、それぞれの形で未永く大切にしてくれている師の姿に改めて感動したのさえ三十年も昔のことだけれど、そんな泰星時代の暖かな思い出はがついたのはいつの事だったろうか：

あの、明るいニス塗りの頑固な座席

が向きあい、正面の梁に大きく“V E

N I T E A D O R E M U S”と金文

字で書かれていたあの聖堂のなんと温

もりに満ちていた事か：

親戚縁者・知人友人の結婚・葬儀で

東京カセドナルへ行く度に、私はあ

れたく空疎でセコい権威臭だけが漂う

只中で、「何が“聖マリヤ”大聖堂だ、

これは聖堂なんかではない、聖職者と

いう名のケチな権力者が三流建築家に遊ばれるところの事になる。もし諸君

が伽藍のあるべき姿を知りたければ福岡・泰星学園の聖堂を訪ね給え」と公

言し、いつも誇りにして来た。その聖堂が校舎移転で取り壊されたと聞いた

時、母校の直面していた事態の深刻さに暗然となつた。そして、同窓会で講演させられた時「あの聖堂だけは惜しい……」と話したら当時のY校長が「新しい聖堂も必ずいいものになりますから……

と本当に申しわけなさそうに言われて恐縮してしまつた。ふと考えて見ればT師もI師もY師もすでに亡い。

野田 昌宏（本名 野田 宏一郎）

のだ・まさひろ

野田 昌宏

（昭和八年生まれ。昭和27年泰星学園卒業。昭和三十四年学習院大学政経学部卒業後、フジテレビに入社。「スター千一夜」「ひらけ!ボンキッキ」等人気番組を作成する。昭和五十年同社を退社し、日本テレワーク株式会社を設立、引き続きテレビ番組の制作にあたる。昭和五十九年同社の代表取締役社長に就任。またSF作家としてSFの創作評論活動を行い、著訳書は三百冊を超える。主な訳書に「キャバーン・ファーチャー」シリーズ、「銀河辺境」シリーズ、「スター・ウォーズ」三部作（いずれも早川書房）ほかがあり、主な著書に「銀河乞食軍団」シリーズ、「SF英雄群像」書も多い。

（連絡先）日本テレワーク株式会社
〒162 東京都新宿区住吉町1-1-20
TEL 03(33358)7141
FAX 03(33358)7980

山莊会

畠山春秋

第九期 昭和十九年卒

泰星学園といえど、現在福岡では知らない人はいないほど、有名で立派な私立学園だ。

しかし、我々が卒業した一九四四年頃の福岡では、泰星なんてほんの一部の人しか知らないし、受験生もいなかったのだ。それでもそのはず、戦前の旧制泰星中学は、将来カトリック司祭になる目的の人だけが入学し、全員寄宿舎生活という特殊な中学だったのだ。

所在地も現在の輝国町ではなく、杉谷後の山荘通りにあった。現在の山荘通りは高級住宅地だが、戦前は、泰星以外には数軒の人家しかなく、春にはけだるい声の春蟬が鳴き、山桜が匂い、山つづじが赤い花をつけ、ほうの木が薰り、山桃がなつた。梅雨時には谷から幾万とも数知れない

昭和20年頃の仰星門

一セントほどのひきがえるの子が、校庭といわず、廊下といわば、谷から山へ登つていった。夜には狐が叫び、ふくろうが不気味に鳴いた。

近くにある望東尼の尼寺が、昔日勤皇の志士の隠れ家であったことを

思えばおして知るべしである。
戦後五十年、幾多の変遷を経て今日に及んでいる。

前述のように当時は志と同じくする者の集団であったが、その反面出身地は全く多彩であった。地元福岡出身の生徒といえば、私と私の弟ぐらいいなものだった。あとは、大阪・京都・長崎・四国といった県外はおろか、韓国・台湾・遠くはハワイ出身の生徒もいたのである。

時は流れ戦争と敗戦、同じ金の飯を食った同窓生にも、徴兵・特攻隊・徴用等運命の怒濤は荒れ狂った。

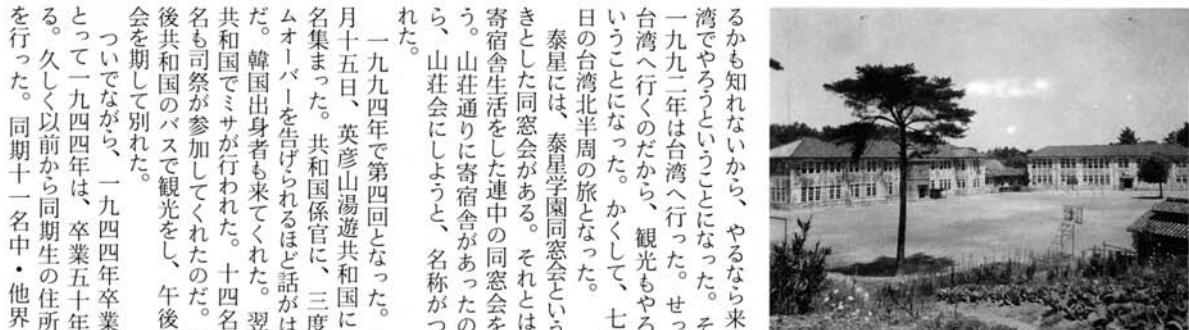
戦後の混亂、困苦欠乏の生活、同窓を省みる余裕などなかった。

戦後が終わり、生活にゆとりもできた。しかし、人は人生の峠を越していく。こうなると苦しかった昔が懐かしくなるものだ。

一九九一年、戦時中台湾出身の泰星同窓生が来日した。彼等が希望する福岡・長崎・佐世保と案内した。佐世保一泊を機に福岡県・長崎県出身の旧泰星同窓生の住所の分かるだけ電話しまくり、台湾出身者の歓迎会を催した。その席上何十年ぶりかの対面で話ははずんだ。話題は今はなき校舎のこと、恩師のこと、他界した仲間のこと、食糧が乏しく毎日空腹だったこと、学徒動員のこと、軍事教練のことなど。

さて、あまり懐かしい会だったので、毎年やろうということになった。今年が佐世保なら来年は福岡でやろうということになつた。せっかく台湾からも来ているのだから、五年に一度は台湾でやろうということになつた。

五年といついたら、我々はもう年



昭和20年頃の平尾校舎



現在の学園

不明二・不参加一で五名が山莊会の翌日十六日に太宰府に集合した。

五名中三名は、五十年ぶりの再会である。五十年も経つと紅顔の美少年もある。指定時間、指定場所に出迎えたからこそ、彼は〇〇だなと判つたが、立派に育てた人もいた。立派な司祭になつた人もいた。

話は終わらなかつた。五十年の話題は尽きなかつた。もう酒はいらないといふ人もいなかつた。もうねむいという人もいなかつた。

午前二時を過ぎても誰も止めようといふ人もいなかつた。皆の年齢と健康を考え、世話人が恐る恐る閉会を提案した。午前二時三十分だった。皆はしづぶしぶ寝室へ去つた。

五十年は長かつた。

午前二時を過ぎても誰も止めようと話ははずんだ。話題は今はなき校舎の日台湾北半周の旅となつた。そして一九九二年は台湾へ行つた。せっかく寄宿舎生活をした連中の同窓会をしよう。山荘通りに寄宿舎があつたのだから、山莊会にしよう、名称がつけられた。

一九九四年で第四回となつた。十一月十五日、英彦山湯遊共和国に十四名も同窓会が参加してくれた。朝食名集まつた。共和国係官に、三度タイムオーバーを告げられるほど話がはずんだ。韓国出身者も来てくれた。翌朝は共和国でミサが行われた。十四名中三名も同窓会が参加してくれたのだ。朝食後共和国のバスで観光をし、午後、再会を期して別れた。

ついでながら、一九四四年卒業生は、つて一九四四年は、卒業五十年になつた。せっかく台湾からも来ているのだから、五年に一度は台湾でやろうということになつた。

五年といついたら、我々はもう年

進学状況

伸びゆく進学実績 六年一貫教育の成果

本年三月四十六期生が本校を卒業し、これで本校が六ヵ年一貫教育の体制になって六回目の卒業生を送り出した事になります。本年の入試結果は現時点（二月）では判明していませんが、一回目の卒業生がでた平成二年から四十五期が卒業した平成六年までの主要大学合格者数は別表の通りです。難関大学にもコンスタントに合格者を出し続け、特に昨年の東大合格者四人という数は、卒業生が百四十という少人数（それでもこれまでの六ヵ年卒業生数の中では最多）であったことを考えると、胸を張れる数字ではないかと思いまます。また、本校と同じくイエズス会の経営している上智大学には、姉妹校特別推薦入試制度の適用を受けて、卒業生の一割を超える六十一人がこの間入学しています。

他の学校が行っているような早朝からの補習や、能力別のクラス編成などを行わずに、一週三十四時間の授業を中心でこれだけの進学結果が残せるようになったのは、やはりイエズス会の六ヵ年一貫教育のシステムの成果です。中学から高校までの六年間の教育内容を無理なくむだなく組み込んだカリキュラム、部活動日週三回の制度、毎日二时限目と三时限目の間に行われる中間体操、こういった他の姉妹校と共に通のイエズス会独特的の

教育システムの中で、学校生活に思う存分打ち込んでいきさえすれば、自然と知力、体力、情操のバランスのとれた人間的成长がとげられるという環境が本校でも整いつつあると思います。

とはいっても、今年の卒業生で、六年間のサイクルがやっとひとまわりしたわけで、この教育システムが本当にこの学校に根付き、姉妹校と肩を並べるほどの成果が出るようになるためには、これからが本当に大切な時期になってしまいます。

年々、本校に対する世間の評価も高くなり、本校中学入試も難しくなってきていますが、今年は百八十人を超える新入生を迎えることができました。この五十二期生が卒業するときが次のひとまわりになるわけです。そのころには更にすばらしい結果を同窓生の皆様にご報告できるよう、職員一同頑張って行きたいと思っています。皆様の御支援をよろしくお願いします。

● 中学ハンドボール部
中学ハンドボール部は昭和五十九年に創部され、過去、県大会準優勝、九州大会出場と輝かしい実績をもっています。現在、総勢十四名の部員で福岡県大会優勝を目指して頑張っています。

五期）福大、伊藤（四十五期）東大。

● 中学バレーボール部
中学バレーボール部は現在部員數八十八名です。数年前までは、中央区大会で一勝するのがやっとでした。しかし、強化合宿など部員の地道な努力の甲斐あって、少しずつではありますが、チーム力が上がってきたように思います。

● 高校バレーボール部
かつては私学祭二位になつたことのある輝かしい伝統を持つ我が部は、秋田先生より顧問を引き継いで以来、十一年、一回戦突破を目指して頑張る弱小チームになつた。週三日練習で、いかにして高校生の体力を持ったチームに繼いで以来、十一年、一回戦突破を目指して頑張る弱小チームに

合格大学名	2年	3年	4年	5年	6年	計
東京大学	1	2			4	7
京都大学	2	1	2		5	
九州大学	6	5	4	4	6	25
大阪大学	1			1	2	4
東京外語大学	1			1	2	2
一橋大学				2	2	
東京工業大学	2			1	3	
熊本大学	2	4	1	1	3	11
長崎大学	1	2	2	3	8	
九州工業大学	1	6	5	7	6	25
上智大学	8	12	14	11	15	60
早稲田大学	4	10	5	2	5	26
慶應義塾大学	6	6	5	3	4	24
明治大学	3	7	6	3	4	23
東京理科大学	5	2	2	4	4	17
同志社大学	5	5	5	8	2	25
立命館大学	1	8		6	7	22
久留米大学(医)	2	4	4	3	3	16

クラブ活動の飛躍

「イエズス会教育方針と部活動について」

昭和五十八年に経営母体がイエズス会に移籍し姉妹校と同様の校則などが導入された。変更項目は次の通り、一、中学生は週二日、高校生は週三日とし、下校時は夏場六時下校、冬場は三十分早める。一、中高校と合わせて顧問二人制とする。毎日、練習があり活発であった部活が一時的に低下した為に、全体的に

昭和五十八年に経営母体がイエズス会に移籍し姉妹校と同様の校則などが導入された。変更項目は次の通り、一、中学生は週二日、高校生は週三日とし、下校時は夏場六時下校、冬場は三十分早める。一、中高校と合わせて顧問二人制とする。毎日、練習があり活発であった部活が一時的に低下した為に、全体的に

昭和五十八年に経営母体がイエズス会に移籍し姉妹校と同様の校則などが導入された。変更項目は次の通り、一、中学生は週二日、高校生は週三日とし、下校時は夏場六時下校、冬場は三十分早める。一、中高校と合わせて顧問二人制とする。毎日、練習があり活発であった部活が一時的に低下した為に、全体的に



● 高校ハンドボール部

中学部では基礎を作り、高校で開花させる計画で大石一八尋の連携指導で効果を挙げている四十

五期は高い成績を残したが、その後は低迷している。本年度は四十

七期を中心に九州地区の各学校と練習合宿を実施しながら県大会の上位を目指して練習に励んでいます。

一昨年、四十八期生を中心とす

るメンバーで初めての中体連中央区大会で準優勝、そして念願の市大会出場を果しました。また、

五十期生を中心とするメンバーが昨年の新人戦で、中央区大会で同じく準優勝し、市大会出場を

泰星

●バスケット部（中・高）
近年のバスケット熱の高まりにより、中学部員は増加の一途をたどっています。小学校でミニバスケットを経験した者も、泰星へ入るためにやりたくてもバスケットができないかった者で、やる気満々で入ってきます。バスケットのゲームの性格上、負けん気の強い子が多くまとめるのが難しいことも多々あります。一旦その気になれば頼もし面々です。



新しくバスケット発祥の地アメリカ出身のカタラノ先生が高校の顧問となられ、活躍が楽しみです。

●サッカー部（中・高）
中学サッカー部は、創部して二年目となる。初めての数年間は市内最弱と言つても過言ではなく、実際試合ではなかなか勝てなかつた。しかし、部員のたゆまぬ努力の甲斐あって、年々チーム力は上がつてきている。十年目にして四十八期生森山君がキャプテンを務めたチームは、初めて念願の中体連・市大会出場を果たし、ベスト8にまでなった。その後四十九期小口君率いるチームは新人戦大会で再び市大会に出場するなど、コンスタントに結果を出すまでになつてゐる。ただでさえ人気のスポーツの上、練習が週三回という条件の中で泰星イレベルが上がつていて、特にベスト8のメンバーが主力になる平成七年度は期待が持てよう。県大会本選

高校・中学が合同して活動してお

●硬式テニス部（中・高）
硬式テニス部は現在高校生二十四名、中学生三十名の部員が活動している。高校生は高二の生徒が福岡県大会個人戦において三位の成績をあげていて、また中学生は福岡県全体で男子で硬式テニスの活動をしている学校は三校のみで、あとはクラブチームであるが昨夏に行われた福岡県少年スポーツクラブテニス大会において泰星中学は団体戦で優勝することができた。部内の雰囲気はよくキャプテンを中心にしてよく練習している。今後中学生は全九州中学生テニス大会、高校生は高校総体を目指し頑張つていいくところである。

●将棋部
平成六年の四月に、同好会から部に昇格してより、対外試合に進出し始めました。六年度は、日本高校将棋選手権全国大会出場を目指して、福岡県大会に挑戦しました。結果は第五位ということですが、目的を達することは出来ませんでしたが、七年度の再挑戦を目指し猛特訓を開始しました。将棋部は、

出場をめざして日々練習に励んでいます。どこまで勝ち進んでゆけるのか、楽しみである。

●陸上競技部（中・高）
陸上競技部は現在中学生と高校生とが一緒に活動日に仲よく練習しています。部員数は中学生が九名と高校生が十一名の合計二十名で、中体連、高体連、記録会、駅伝大会等に参加し、自己の記録に挑戦し、体力向上をめざして日々努力しています。御支援よろしくお願いします。

監督 本田尊憲

●歴史文化部
現在部員数は八人という少人数のクラブですが、皆歴史や文化に強い関心を持ったマニアの集まりです。主たる活動は各自一年間調査研究したものを部誌として発刊することです。また福岡周辺の名所旧跡をめぐりフィールドワークも行っています。今年は平尾山荘を訪ね、それを一つのテーマとして幕末の福岡藩の動きを調べてみました。それから博物館や美術館にも積極的に見に行くようになっています。

●生物・化学部
平成六年度より、生物部改め、生物・化学部となり、より一層広い分野での活躍が出来るようになります。

●美術部
美術部は現在九名で、週三回美術教室で活動しています。部展を開くほど作品がそろわないのが悩み

ります。活動内容は、実践練習・定期的観賞などです。年に二回、夏休みと春休みに合宿を行います。

昨年の夏は玄界島の民宿で二泊三日の集中特訓合宿を敢行しました。春には柔道場に寝泊りして、特訓にはげみ、全国大会出場の悲願を早く達成したいと思っております。

●事務局
平成六年度版名簿が出来上がりました。平成六年七月版)改訂に際しまして、会長はじめ各回員の方々に特別のご尽力頂き整理して参りましたが、いまだ現住所ならびに連絡先等が判明しない方などいぶんおられます。各回員の方を中心して他の会員の方についての所在の判明分があれば事務局へご連絡下さい。次回の改訂は更に内容の充実した名簿にしたいと思っています。(平成八年七月予定)

②名簿への広告掲載のご協力をお願いします。

名簿作成経費については会員各位から協力頂いた広告料収入、会員の会費で賄われています。皆様の積極的なご協力ををお待ちしています。

③名簿希望の会員の方は事務局へお申込み下さい。

電話 092(712)7181
FAX 092(716)5036

1/2 ページもの………5万円
1/2 ページもの………3万円
1/2 ページもの………1万5千円

伊東隆夫 先生 ご帰天
靈名 フランシスコ・サベリオ・広島大
学名誉教授・元エリザベス音大教授・
元佐島女子商短大学長



伊東隆夫 先生 ご帰天

葬儀

先生は、海軍兵学校教授の職から終戦後、昭和二十一年(一九四六年)まで泰星学園の教頭として新学制のもと、堤清三校長(マリア会)を補佐して多くな貢献され、教員の中でも大きな影響を残された。入院中のところ四月三日肺炎を併発し、秘跡を受け安らかに永眠された。享年八十四才。

四月五日十三時、広島平和記念聖堂で司教代理の司式による葬儀が行われた。共同司式者として、山元真師(福岡教区)牧山田一郎(鹿児島教区)高田師(マリア会)も参加し、同窓生十余名が各地よりかけつけ、大聖堂にあふれる参加者と共に先生の遺徳をしのんだ。

た三学期は、昨年六月種子島・屋久島で先生を招いてクラス会を開いたのが最後の思い出となつた。

編集後記



理事会に於いて、会報誌発行の委員会に選ばれましたが、経験もなく、手探り状態の中、仕事の片手間に最小限の時間で作成いたしましたので、まだまだ満足のいくものではなく、もっと網羅したい内容もあるとは思いますが、どうにか日の目を見ることが出来ました。私達発行に当たり同窓生の方々が身近に感じていただける会報誌を目指し回を重ねるごとに充実したものにしていきたいと思っております。どうか、皆様方の率直なご意見ご要望やご提案を切にお願いし先ずはここに発刊するものです。笑顔頂ければ幸いです。創刊に当たり原稿をお寄せ下さいました皆様方には、この場をお借りしてお礼申し上げますと共に委員一同感謝致しております。

委員 田中 文男(六回卒)
島田 征児(十一回卒)
迎 洋介(二十八回卒)

●美術部
美術部は現在九名で、週三回美術教室で活動しています。部展を開くほど作品がそろわないのが悩み

かけたりしています。絵の技術はまだ未熟ですが、お互いにはげましあいながらがんばっています。